

こじゃんと!



いいな...、着ぐるみあって。。。

5月おはなし会

野市

絵本読み聞かせ：10日・24日(土)
おはなしの会：7日・21日(水)

香我美

なんじゃもんじゃ：10日・24日(土)
プチなんじゃもんじゃ：17日(土)

おいでよ! まちの図書館へ

休館(室)日
(香我美・野市図書館) 5月/3・4・5・6・8・12・19・26
(夜須図書館) 5月/3・4・5・6
(吉川図書館) 5月/3・4・5・6・11・17・18・25・31

新着案内 香我美図書館より ☎ 55-0022

新着図書より Pick up!

『小さな雑貨でつくる花アレンジ』

佐々木潤子/著

ガーデニングにいい季節になりました。花は生活必需品ではないので、なくても暮らしていけますが、ほんのちょっとした工夫で暮らしに彩りを与えてみませんか? 花を家に飾るからと、たくさんの花を用意する必要はないのです。ほんの少しの花でも、ちょっと手を加えるとすてきなインテリアになるヒントがいっぱいつまった、見るだけでも楽しい本です。



《大人向け》 《子ども向け》

キレル大人はなぜ増えた 香山リカ/著
ツバメ記念日 季節風・春 重松 清/著
愛子とピーコの「あの世とこの世」 佐藤愛子・ピーコ/著
ザ・万歩計 万城目学/著
ウー・ウェン流おかず2品のお弁当 ウー・ウェン/著

おでんさむらいしらたきのみき 内田麟太郎/文・西村繁男/絵
女子の国はいつも内戦 辛酸なめ子/著
おすしのせかいりょう 竹下文子/文・鈴木まもる/絵

「多肉植物教室」

ちょっと不思議な形の多肉植物を植えてみませんか? 手入れの仕方なども教えてください。材料費など詳しくは香我美図書館まで。

5月17日(土) 午後1時30分から 先着20人(定員になり次第締切り)

5月の展示

おしゃべりな帽子たち 山本正子 帽子展

5月9日(金)~15日(木)
午前10時~午後6時 (最終日は午後5時まで)

新着案内 吉川図書室より ☎ 55-0525

《大人向け》
だいこん 山本一力/著
お神酒徳利 山本一力/著
研ぎ師太吉 山本一力/著

《子ども向け》
魔法の宅急便 角野栄子/作
すてきな仲間たち リサ・パパディメトリュー/作
子ぎつねヘレンの10のおくりもの いまいまさこ/作

小さい図書室ですが 皆さまの心に残る 1冊に出会えるかも....

高知市出身の直木賞作家 山本一力さんの本が3冊、県立移動図書館から入っています。江戸の下町を舞台に描く人情ものです。

4月から図書室の担当をしています よろしく お願いします!

吉川図書室担当 濱崎さちよさん



こじゃんと!こうなん! ②

香南市を「こじゃんと」紹介する 『香南市観光協会』のコーナーです



観光協会 ☎ 56-5200

大蛇藤は 5月の上旬が見ごろです

「香我美町舞川で自然満喫体験!!」
みなさん、気分はすっかりゴールデンウィークになってないでしょうか?
香南市の5月といえば、お花のイベントがまっさかり!! 県立公園や・シィパークでは5月3日(土)~5日(月)「第6回アカシアの花まつり」が開催されます。今回、私が訪れたのは? 「大蛇藤」で有名な 香我美町舞川。

(ちなみに私の事務所 のいち駅から車で約50分)



こちらにお住まいで、舞川地区公民館長をされている小松光広さんに会いに行ってきました。

この「大蛇藤」とは、樹齢300年の巨木で、根元近くの幹周りが約1.2メートルもあり、二股に分かれた枝がすぐ横の杉と榎に巻き付いて、鮮やかな薄紫の花房を垂らします。蛇のように曲がりくねった枝ぶりとすぐ下の舞川のふちに大蛇が住んでいたという伝説から、大蛇藤と呼ばれているのです!

そして、ここは私の一押し「避暑地」でもあります。それは気温が街中よりも若干低く、川の水温も低いので、夏場は涼しくていいですよ。キャンプ場・バンガローがあるので、7月からアウトドアも満喫できます。



テント1張 = 300円
6人用バンガロー(1棟1泊) = 6,000円



山あり川ありで、マイナスイオンを浴びて森林浴もよし、美しい川でイカダ遊び・釣りなんても良いなあ。

夜は、美しい星を見ながら「バーベキューでビール!!」なんて最高です。そんな舞川では夏を待ちきれない市民のために「大蛇藤まつり」が開催されます。今年の見ごろの5月上旬に合わせて5月6日(火)の開催です。

文芸

のぞみ会

春の雪降る明るさに籠り居の天の岩戸を思わず開く
糸とじのほどけし手帳に母の字で昔の詩などつづられてあて 松尾 澄
忘れてしまふ程の遠さに亡母は居て夕茜ながきふるさとの冬 池田とも子
共に古いユンボで諸を掘る夫と声高く上げにぎわつ冬野 近森 邦子
撒き残る福豆入れて豆ごはん二月は早し菜の花さかり 久武 陽子
ぼんやりと低く夕虹架かりけり驟雨上がりし黄砂の空に 山本 房子
年旧りし我が履物をあまたたび整へる吾子くすしなりけり 石原 幸子
B4の鉛筆の文字やわらかく春を呼ぶ歌書けばうき立つ 近森万鏡子
人工業に産卵せしとふこうのとり撮影せむとクレイン背伸びす 島田 清子
秋空に魚や猫や恐竜や絵本の如く雲あそびおり 河野とみえ
山茶花の赤き花びらのぞきおり今朝方降りし雪の下より 内田 道子
小綏鶏の二声啼きて静まれば笹鳴き聞こゆ裏山仰ぐ 筒井 友治
折々に妻の視線の我を射る斗病の身の心見ること 吉田美和子
子に託すセンター入試の二日間家族の祈りに感謝あるのみ 清藤 幸男
忙しさを己れの幸とペダル踏む梅の香のする介護への道 野島 綾子
嶋崎 和子